

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.0
1 音環境				2.9	0.15	-	-		2.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				2.8	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				2.0	0.20	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-		2.4
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.40	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-		3.4
3.1 屋光利用				2.4	0.30	-	-		
1 屋光率				2.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 屋光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		講義室 設計照度500lx以上		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御でき、リモコンで調整できる		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-		3.5
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				4.0	0.30	-	-		
1 換気量		講義室 換気量は30m ³ /h・人		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方位に設けられていて、かつ、排気口と異なる方位で、かつ各種排気口と6m以上離れて設置されている。		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙とし、外部にも喫煙コーナーは無い		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.5
1 機能性				3.4	0.40	-	-		3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.50	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		間接照明を学生ラウンジ等の内装計画に合わせて採用した		4.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内装床材は、防汚性のあるビニル床シートを多用している		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		各階にSKを確保しており、維持管理用の機能を確保している		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30	-	-		3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		講義室3: 床ビニル床シート(20年)、壁AEP塗装(20年)、天井岩綿吸音板(30年)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバリウム鋼板を採用している		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水機器の採用、非常時汚水タンクの設置等、節水機器の採用、非常時汚水タンクの設置、井水利用可能等		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電機の設置、電源設備の地下設置回避等		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:4500N/㎡以上	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		自生種の保全に配慮し、豊富な緑の量を確保する計画としている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.6	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.74、LED照明設備を導入している。	3.6	0.50	-	-	3.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を利用している	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法、エコマーク商品を採用	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない建材種別が1つある	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の発泡剤を用いた断熱材等を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		推奨ガイドライン値を大幅に抑えているガス湯沸器を採用している	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導はないが、自主的に雨水流出抑制対策を実施している	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策	上方や周辺への漏れ光の少ない照明器具の採用。広告物照明は行っていない。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	